

令和5年度 大野町立北小学校通信



輝くひとみ

11月号

自然を楽しむ

10月は、社会見学・ふじはし宿泊研修・修学旅行など多くの行事がありました。どの行事も、ご家庭や園の皆様のご協力により無事終えることができ、大変うれしく思っています。ありがとうございました。

日没がうんと早くなり、11月8日は「立冬」です。この日から暦のうえでは冬になります。この頃になると、木枯らしと呼ばれる冷たい北風が吹いたり、ケヤキの葉が色付き始めたりします。

さて、北小学校は、校地内にある「樹木園」に代表されるように、大変自然に恵まれた環境が自慢です。ウメ・カキ・クリ・コナラ・トチ・グミ・モモ・イチョウ・サクラ・カエデなど、実のなる木や紅葉する木がたくさん植えられています。先日、つばさ学級の子たちが栗を上手に拾い、栗ご飯づくりに挑戦しました。3年生の子たちも柿の収穫を楽しみにしながら、一足先にJAいび川と大野町かき振興会のみなさんのご協力で様々な柿の食べ比べを行いました。休み時間になると、校庭で自然と触れ合っている子たちもたくさんいます。

自然に恵まれた北小の環境を生かした学習をこれからも続けていきたいと思えます。ご家庭や園でもぜひ、身近な自然について話題にしてみてください。



児童会「しんけん授業」の取組

10月に、児童会を中心に「自分の考えを話そう」「仲間の意見に反応しよう」という取組が行われました。当初、学校全体で挙手回数目標を取組期間中で1500回と設定しましたが、初日だけで4000回を超え、北小の子たちの底力に驚かせられました。今は、1週間で15000回という目標に設定し直して取り組んでいます。この取組と同時に教師は、授業の中で問題解決をしたいと思えるような投げかけをしたり、挙手している子だけでなく、挙手できない子の意見も丁寧に聞き取ったりするなど多様な考えを交流できるように工夫しています。特に、高学年は、仲間の意見と関連付けたり、根拠を明らかにして話したりできる子も増えてきました。

自分の考えを仲間に表現でき、そして、受け入れられる経験は自己有用感を高め、これから困難に立ち向かう力になっていきます。これからも、一人一人のお子さんに合わせたエールを送っていきたいと思えます。